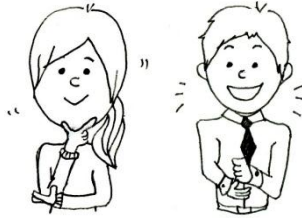


今、求められる学力は



21世紀型能力

国立教育政策研究所は、今後の教育課程編成で育成が求められる資質・能力として『21世紀型能力』という枠組みを提起しています。

「21世紀型能力」は、「生きる力」としての知・徳・体を構成する資質・能力から、教科・領域横断的に学習することが求められるものを抽出するとともに、「思考力」を中核とし、それを支える「基礎力」と使い方を方向づける「実践力」の三層で構造化しています。

思考力

一人一人が自ら学び、判断し、自分の考えを持って他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、さらに次の問いを見つける力

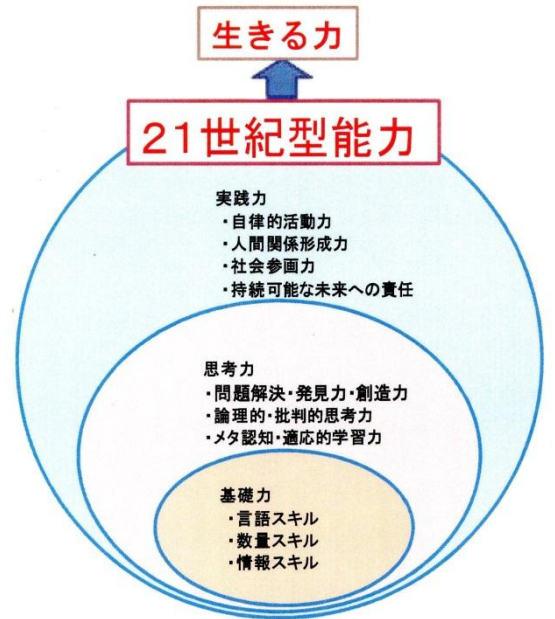
(メタ認知)

基礎力

言語・数量・情報を道具とし、目的に応じて使いこなす力

実践力

日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分の知識を総動員して自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことができる力、およびその解を社会に発信し、協調的に吟味することを通して、他者や社会の重要生を感得できる力



【出典】国立教育政策研究所（2013年）
「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」

新学習指導要領の方向性

育成を目指す資質・能力の三つの柱

「何ができるようになるか」

